

麒麟がくる
戦国を駆け抜けた
4人の

細川藤孝 HosokawaFujitaka

城

明智光秀 AkechiMitsuhide

細川忠興 HosokawaTadaoki

玉 (ガラシヤ) Tama(gracia)

●千田嘉博氏が語る
「勝龍寺城！ココがすごい」

●磯田道史氏が語る
「細川藤孝・明智光秀と長岡京市」

勝龍寺城！ ココがすごい

日本の城郭史のなかで卓越した城だった、勝龍寺城。大河ドラマ『麒麟がくる』のゆかりの地として脚光を浴びるなか、改めてその魅力や価値に迫っていただきました。

(令和元年 11 月 2 日長岡市内にて)

千田嘉博氏

1963年愛知県生まれ。城郭考古学者・博士(文学)。国立歴史民俗博物館助教授などを経て、現在、奈良大学教授。中学生から城跡を歩きはじめ、日本と世界の城を研究。文化財石垣保存技術協議会評議員、特別史跡熊本城跡保存活用委員など、日本各地の城跡の調査と整備の委員を務めている。城郭の考古学的研究を新たに開拓し、その確立と発展に寄与したことにより、2015年に第28回濱田青陵賞を受賞。2016年には、NHK 大河ドラマ「真田丸」の真田丸城郭考証を務めた。主な著書に『織豊系城郭の形成』(東京大学出版会)、『戦国の城を歩く』(ちくま学芸文庫)、『信長の城』(岩波新書)など、監修書に『日本の城事典』(ナツメ社)などがある。



細川家と明智家にゆかりの深い勝龍寺城。

元龜2年(1571)に、織田信長の命により細川藤孝(幽斎)が大規模な改修工事を行ったのが、現在の勝龍寺城の原型です。信長が、非常に広い範囲に勝龍寺城の普請の手伝いをするようにと指示した古文書が残っていることから、信長の味方をした藤孝の居城・勝龍寺城というのは、織田政権にとって重要な拠点として、非常に大きな意味を持っていたと思います。そして、大河ドラマに必ず出てくるであろうと思いますが、天正6年(1578)に藤孝の嫡男の忠興と光秀の娘のお玉・ガラシャさんが、勝龍寺城で祝言をあげる。それによって、ますます光秀と藤孝、あるいは細川家と明智家が結ばれていくことになっていきます。

中世から近世への移り変わりを実感できる四角いお城・勝龍寺城。

城の全体像を復元してみますと、本丸を中心として、「石垣」や「櫓形虎口」(※方形空間を囲んで築かれた城への出入口)などがあった点も注目すべきですが、中心部が基本的に四角い形をしています。それから、周辺の沼田丸とか沼田屋敷、松井屋敷。具体的な屋敷がどうだったかははっきりわかりませんが、いずれにしても四角い形で、おそらく溝もしくは堀を巡らしていた「館」が周囲に並び立っていた。これは、室町時代以来の武家屋敷の伝統を踏まえている、そういう歴史性があったと思います。まさにこの勝龍寺城というのは、中世的なお城が近世的なお城にどのように変わっていったのかということを示す、全国的に見ても極めて重要なお城です。そして、その中心部、あるいはその外側の堀や土塁の様子というのを、発掘調査のときだけでなく、現在、普通に行って見ることができる、体感することができる、特別なお城ですね。

当時最先端の段石垣を取り入れていた勝龍寺城。

1991年の発掘調査で、戦国期における極めて貴重な石垣が大規模に見つかっています。そこでは、多くの自然石を積み上げています。実は、しばしばですね、信長が初めて石垣をお城に導入したと、本やインターネットの情報なんかには確信に満ちて書いてあることがあるんですけども、間違っていますね。信長以前にも、石垣の城というのは畿内を中心に成立していて、信長はその技術を自分の城にちょっと遅れて導入していったというのが真実だと思います。さらに、勝龍寺城では、当時の最先端の「段石垣」を用いていたお城です。まだまだ一気に高い石垣を作ることができる時期ではなく、やむを得ず、3~4メートルの石垣を作って、そこでセットバックして次の段を作って、またセットバックしてその上の段を作っていく。そういった段々の石垣を取り入れていることも勝龍寺城の特徴です。

石垣や瓦に見られる光秀の城と藤孝の城の共通点。

光秀が作ったお城の一つ・福知山城。この石垣は、「転用石」をたくさん用いているということでよく知られておりますが、勝龍寺城からもたくさんの「転用石」が見つかっています。これも時代と言いましょか、石の形を選んでなかったんですね。ですから、お地蔵さんであれ、墓石であれ、積める石であれば積んじゃうということです。それから、最近のお城研究では、重ね積みが非常に面白い、石垣を考えるポイントになると言われています。勝龍寺城は、光秀の福知山城と同じ重ね積みを採用しており、藤孝と光秀とは共通した技術体系を持っていたことが見えてまいります。さらに、勝龍寺城からはたくさんの「瓦」が見つかっています。当時、まだ多くの人が板葺きの屋根を使っていたので、瓦を使うこと自体が非常に先進的です。そういったなかで、光秀の坂本城の軒丸瓦と勝龍寺城の軒丸瓦が、過去の調査から、同じ型で模様を浮き彫りにした瓦であるということがわかっています。いずれも京都系の技術で作られた瓦であり、ここにも光秀と藤孝が、非常に近い関係というか、特別な関係ということが見えてくるように思います。



【上】勝龍寺城北門虎口の石垣。おおよそ半分から下の部分は、約400年前の藤孝が築いた石垣そのものが残っています。
【下】発掘調査で出土した軒丸瓦。三ツ巴の文様は、光秀が築いた坂本城(滋賀県大津市)と同じ型で作られたもの。勝龍寺城公園管理棟2階展示室で実物を展示しています。

光秀・藤孝と 長岡京市

明智光秀とともに戦国を生き抜いた盟友・細川藤孝。二人の関係に注目しながら、本能寺の変から山崎合戦へつづく、長岡京市ゆかりの歴史を語っていただきました。

(令和元年 12 月 8 日長岡市内にて)

磯田道史氏

光秀・藤孝と非常にゆかりの深い長岡京市。

一つには細川(長岡)藤孝が、長岡京市の勝龍寺城を中心とした、桂川の西岸あたりを領有したということもありますし、明智光秀が細川家に仕えていたということもあります。そして、光秀の滅亡は山崎の合戦でありましたので、秀吉と最後の戦いをするとき、

1970年岡山市生まれ。慶應義塾大学大学院修了。茨城大学助教授、静岡文化芸術大学教授などを経て、現在、国際日本文化研究センター准教授。NHK・BSプレミアムの歴史番組「英雄たちの選択」のキャスター。著書に『武士の家計簿』(新潮新書、新潮ドキュメント賞、2010 年映画化)、『近世大名家臣団の社会構造』(東京大学出版会)で博士(史学)。『天災から日本史を読みなおす』(中公新書)で日本エッセイストクラブ賞。『無私の日本人』(文春文庫)の編者(穀田屋三郎)が2016年「殿、利息でござる！」として映画化された。2018年には「明治150年」について両陛下にご進講。大河ドラマ「西郷どん」の時代考証をつとめる。近著は万葉学者・中西進先生との共著『災害と生きる日本人』(潮出版社)。



勝龍寺城に一時光秀が陣をおいたゆかりの地でもあります。

信長に仕えるまでの光秀は、想像を逞しくすれば、恐らく越前・朝倉家との連絡、もしくは情報収集のような形で、非常に深く幕府や長岡・細川家とのつながりを持ち、連絡を取りながら、情報を送ったり、交渉のときには取次ぎをしたり、そういった要員をしていたのではないかなと思います。

参加しよう！

Event イベント情報。

1



ようこそ長岡京市！まちなか博イベント!？勝龍寺城会場

ミニ企画展 『勝龍寺城の茶道具—文化交流の場—』



勝龍寺城城主・細川藤孝は、当代随一の文化人。また、藤孝の嫡男、忠興は後年、千利休の高弟「利休七哲」の一人として名を馳せませす。

昭和63年、勝龍寺城公園の整備にかかる発掘調査によって、さまざまな遺構・遺物が出土し、そのなかには茶道具も確認されています。勝龍寺城でもたびたび茶の湯が催され、戦闘における防御施設であったと同時に、文化的な活動の場であったことがうかがえます。今回は、これら茶の湯に関わる出土品を紹介しています。

■期 間 令和2年4月5日(日)まで

■開館日 午前9時から午後5時(4月以降は午後6時まで)

■場 所 勝龍寺城公園 管理棟 2F 展示室内

(長岡京市勝龍寺13-1 / JR京都線長岡京駅から南へ徒歩約10分)

※お車でのご来場の際は、JR長岡京駅周辺駐車場をご利用ください。

■問い合わせ 長岡京市教育委員会生涯学習課 ☎075-954-3557

無料

観覧自由

2



ようこそ長岡京市！まちなか博イベント!？図書館会場

ミニ企画展 『恵解山古墳と山崎合戦』



恵解山古墳から出土した戦国時代の土師器皿、白磁皿、火縄銃の弾

天正10年6月、本能寺で織田信長を討った明智光秀は、その後、備中高松城攻めから急ぎ戻った羽柴秀吉と戦うこととなります。以前は「天王山の戦い」と呼ばれていましたが、実際の合戦が行われたのは大山崎町から長岡京市の勝龍寺城付近一帯であったため、「山崎合戦」、あるいは「山崎の戦い」と呼ばれています。恵解山古墳は、以前から明智光秀の本陣跡とする説がありました。史跡整備に伴う発掘調査で、戦国時代の遺物や曲輪状の改変痕などが見つかっています。その調査成果の一部をご紹介します。

■期 間 令和2年3月29日(日)まで※図書館休館日は除きます

午前10時～午後7時(土曜・日曜・祝日は午後5時まで)

■場 所 長岡京市立図書館1階歴史資料展示コーナー

■問い合わせ 長岡京市教育委員会生涯学習課 ☎075-954-3557

無料

観覧自由

3



長岡京市特別歴史講演会

『勝龍寺城—石垣・瓦・天主の出現—』



勝龍寺城はその後の城郭の標準となる当時最先端の城。中井先生には、発掘調査成果をもとに、城郭研究の視点でご講演いただきます。

■日時 令和2年3月1日(日) 午後1時30分～3時45分

■場所 長岡京市立中央公民館3階市民ホール

■講師 滋賀県立大学教授 中井均さん

■主催 NPO法人長岡京市ふるさとガイドの会

■共催 長岡京市教育委員会

■後援 長岡京市観光協会

■問い合わせ NPO法人長岡京市ふるさとガイドの会の中山さん ☎050-1082-2636

長岡京市教育委員会生涯学習課 ☎075-954-3557

申込不要

先着 200 名

資料代 500 円